

ファンド概況

基準価額	10,457円	純資産総額	576百万円
設定日	2008年4月24日		
信託期間	無期限		
決算日	毎年2月25日		

期間別騰落率(%)

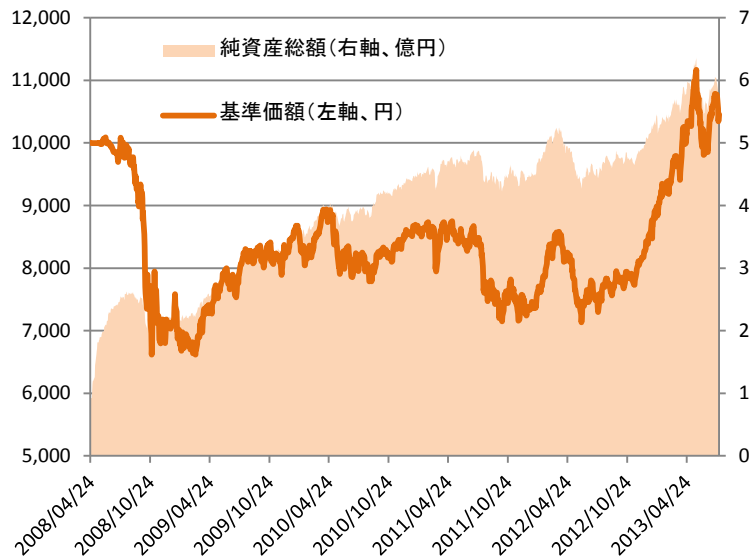
1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
4.61	1.50	14.57	38.21	27.68	4.57

分配金(円)

直近3期を表示			
3期 ('11/2/25)	4期 ('12/2/27)	5期 ('13/2/25)	累計
0	0	0	0



基準価額と純資産総額の推移



運用コメント

7月の日経平均は0.07%下落しました。一時、15,000円直前まで買われる場面もありましたが、急速な円高と中国景気の減速懸念により、13,000円台後半まで売られました。結果的には、6月の安値(12,415円)を切らずに終わりました。主な要因として、日米の景気回復テンポが先月に比べて、やや改善していることが考えられます。米国では4-6月の第2四半期の実質GDPが事前予想を上回る1.7%と発表され、住宅投資や設備投資が堅調な動きになっています。

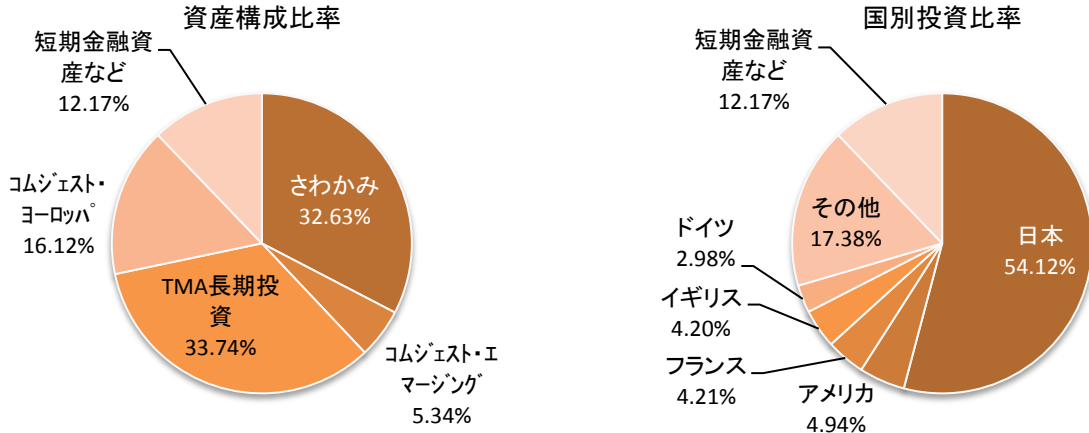
一方、日本でも緩やかながら、雇用の改善と個人消費が生産を押し上げる好循環が確認されています。

7月はNY株式が再び史上最高値を更新する等、新興国から米国への資金回帰が目立ち始めています。米国は、不動産と株高による資産効果で消費が底堅く推移していますので、景気回復が本格化すれば、出口戦略の時期が心配されるというジレンマにあります。この調子でいくと9月の量的緩和縮小の可能性は高そうです。そうなると米国の金利高期待から日米の金利差の拡大、ひいては円安への動きが加速することが予想されます。日本では円安＝株高の構図は続いていますので、今後も下値を切り上げながら堅調な展開が予想されます。一方、中国、ロシア、ブラジルに代表される新興国の景気回復が遅れています。欧州は新興国との結びつきが深く、貿易比率も高いので、新興国の不振が長引けば、さらに景気の足を引っ張る事になるので、今後も注意が必要と考えています。

7月のらくちんファンドの運用結果に関しましては、組入れファンドで最も値上がりした「TMA長期ファンド」、新興国株式に投資している「コムジェスト・エマージング・ファンド」、欧州株式に投資している「コムジェスト・ヨーロッパ・ファンド」、日本の優良株式に投資している「さわかみファンド」の値上がり率が影響して+4.61%の上昇となりました。

今後の運用に関しましては、引き続き、景気減速感が強まりつつある欧州経済や、影の銀行システムの問題が表面化している中国経済が懸念材料です。また、世界的には金利の動向に目が離せませんが、中国や中東でデモや暴動が多発する中で、徐々に運用資産の質への逃避(比較的 안전한資産へ移すこと)が起きているのではないかと考えています。したがって、当面は、収益の回復が強い日米欧先進国へ投資するファンドへの高位の組入れを継続し、世界経済の動向を見極めて、慎重に判断したいと考えています。ファンド組入れ比率は、当面85～90%程度を維持する方針です。

ポートフォリオの状況



らくちんファンド純資産総額に対する上位組入れ銘柄・比率

(組入銘柄数:250銘柄)

順位	銘柄名	業種	組入比率	組入れファンド名
1	トヨタ自動車	世界最大級の自動車メーカー	1.95%	さわかみ
2	キーエンス	ファクトリーオートメーション用センサの製造	1.62%	TMA長期投資
3	ブリヂストン	世界最大手のタイヤメーカー	1.54%	さわかみ
4	本田技研工業	二輪・四輪・汎用機を製造する世界的メーカー	1.35%	TMA長期投資
5	エア・ウォーター	総合ガス企業	1.25%	TMA長期投資
6	シマノ	バイク、釣具、ボート等を製造	1.08%	TMA長期投資
7	日揮	石油精製・天然ガス処理等のプラント製造	1.08%	TMA長期投資
8	リンナイ	給湯、厨房、空調等の各機器を製造	1.05%	TMA長期投資
9	L'OREAL	フランスの世界最大の化粧品会社	1.02%	コムジエスト・ヨーロッパ
10	SMC	空圧機器などを製造・販売(日本)	1.01%	TMA長期投資

今月の会社紹介

【会社名】

トヨタ自動車

【事業内容】

売上高で日本最大の企業で世界の3大自動車メーカーの一角を占めています。早くからハイブリッド技術を確立しており、2012年には、グループで975万台を販売し、世界1の販売台数に輝いています。販売台数の6割は先進国向けで、新興国向けの販売で他社に遅れを取っています。今後は部品等の自前主義を改善して、コスト削減をさらに進め、新興国で販売できるまで原価を抑えられるかが課題となっています。一方で高速度域の衝突回避支援システムや駐車場内での衝突事故軽減技術を開発する等、新技術の開発も怠っていません。今年に入り、BMWと燃料電池車やスポーツカーの開発で正式に合意しています。今後、GMも達成していない1千万台の世界販売を達成する可能性があります。世界3強から頭一つリードし、新たな成長の形を期待している投資家も増えています。(クローバー)

トヨタ自動車は「さわかみファンド」に5.97%組入れられています。

TOYOTA

ファンドの特色

①「長期投資」を実現するためのファンドです。

- ・長期的に安定した運用が行われているファンドであり、かつ将来にわたってもその運用が継続される可能性が高い複数のファンドを厳選します。
- ・運用にあたっては、景気変動のサイクルに沿った、アセットアロケーションの切り替え(現預金と組入れファンドの投資比率の変更)を大前提とし、景気サイクルのダイナミズムを先取りする形で、資産配分を行っていきます。
- ・運用にあたり、特定のベンチマークを設けることはしません。また、短期的な市場変動に惑わされることなく、長期的な資産の成長を目指して運用を行います。

②投資対象ファンドを厳選します。

- ・主として日本株、海外株等を投資対象とする投資信託証券を投資対象とします。
- ・ファンドの運用方針が明確で、一貫性があることを重視します。
- ・運用資金が安定的に推移し、顧客から継続して支持を受けていることも重要な条件です。
- ・基準価額の推移が運用方針と整合性を持っているかも重要な判断基準です。

③日本株および海外株へ広く投資します。

- ・投資対象であるファンドを通じて、先進国から新興国まで幅広く世界の株式を中心に投資します。
- ・国や企業の高い成長性を世界に求める一方で、グローバルな成長による恩恵を受ける日本企業へも日本株ファンドを通じて、積極的に投資を行います。
- ・日本株と海外株の投資比率は50:50を当面の運用目標としておりますが、相場環境等により、この比率は大きく変わることがあります。

④ファンド・オブ・ファンズの仕組み

- ・個別の株式、債券等に直接投資するのではなく、株式や債券等に投資している複数の投資信託に投資します。

ファンドにかかわるリスク

当ファンドは、値動きのある国内外の株式等に投資する投資信託証券に投資しますので、基準価額はその影響を受け変動します。

投資信託は預貯金と異なり、投資元本が保証されているものではありません。投資による利益および損失は、すべて受益者(投資者)の皆様に帰属します。

基準価額の主な変動要因としては、価格変動リスク、信用リスク、流動性リスク、為替変動リスク、カントリーリスク等があります。リスクについての詳細は投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

<お申込みの際は、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください>

ファンドにかかわる費用

購入・換金手数料	ありません
信託財産留保額	お申込日の翌々営業日の基準価額に0.1%の率を乗じた額
運用管理費用 (信託報酬)	年率0.945%(税抜き0.90%) 組入れ投資信託証券も含めた実質的な負担 年率1.6±0.3%(概算)
その他費用・ 手数料	監査費用、租税、信託事務の処理に要する諸費用等 *これらの費用は運用状況により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

業務管理部からのお知らせ

残暑厳しい折、皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。

【ご登録内容の変更はございませんか？】

転居等によりご住所、ご連絡先が変更となった場合は、弊社への変更手続きが必要となります。弊社より、**お取引に関する重要な書類や大切なお知らせなどをお送りしております**ので、ご住所等の変更がございましたら、お手数ですが下記の手順にてお手続きをお願い致します。

- ①「登録事項変更届」の用紙を弊社ホームページまたはお電話にてご請求ください。
- ②「登録事項変更届」にご記入のうえ、ご返送ください。
※弊社ご登録印であることをご確認ください。
※新住所が記載された「ご本人確認書類」(運転免許証の写し・住民票等)をご同封ください。
- ③後日、弊社より「登録内容変更の控え」を発送いたしますので、内容をご確認ください。

なお、メールアドレスのご変更は、ホームページまたはお電話でもお手続きを承ります。

<ホームページの場合>

「各種お手続き」→「メールアドレス・レポート受取方法変更」フォームよりご連絡ください。

<お電話の場合>

「メールアドレスが変更となった」旨をお申し出ください。

ご不明な点等ございましたら、弊社業務管理部までお問い合わせください。

【毎月つみたてスケジュール】

引落開始月	新規申込・引落口座 変更締切日	引落金額変更・ 中止締切日	引落日	約定日
平成25年9月	受付終了	8月23日(金)	9月5日(木)	9月18日(水)
平成25年10月	9月3日(火)	9月24日(火)	10月7日(月)	10月18日(金)

※毎月つみたてサービスの金額変更・中止については、お電話でも承っております。その際、ご本人様確認(氏名、住所、現在の契約内容等)をいたしますので、予めご準備をお願いいたします。

クローバー・アセットマネジメント株式会社 業務管理部 (受付時間: 平日9時～17時)

TEL: 03-3222-1220 / E-mail: gyoumu@clover-am.co.jp



当資料のご利用にあたっての注意事項

■当資料はクローバー・アセットマネジメント株式会社が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。取得の申込みにあたっては、投資信託説明書(交付目論見書)等をお渡ししますので必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。■投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産に投資する場合は、為替変動リスクもあります)に投資いたしますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の皆様の投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。■運用による損益は、すべて投資者の皆様へ帰属します。■当資料に記載された過去の実績は、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。■当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。■当資料中に示された意見等は、作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。■投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。■投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。■登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。

本当に豊かになれる投資を目指して

クローバー・アセットマネジメント株式会社
代表取締役社長 多根幹雄

はじめまして、新社長の多根幹雄です。かつて私は9年間スイスでグループ企業の資産運用を行ってきました。その時の最大の目標が『日本の皆様に世界のトップクラスの金融のプロ達の提案する投資機会を手軽に提供できないか。』というものでした。このたびクローバー・アセットマネジメントへの参画が認められ、この夢を実現できるチャンスを与えられたことを大変うれしく思っております。

さらに私がこの時期にクローバーに参画したかった理由があります。今までの『円高、デフレ』から『円安、インフレ』へ転換する時代になったということです。『円高、デフレ』の時代ならば銀行預金、つまり円の現金でお持ちいただいても投資としては正解でした。しかし、『円安、インフレ』になるとそうはいきません。リスクを取って投資する必要があります。しかし、いままで株式投資のご経験のある方ならともかく、銀行預金しか経験のない方にいきなり投資をといてもなかなか出来るものではありません。そんな皆様にも安心して、満足のいくリターンを安いコストで提供できる投資機会を提案したい。今回新たに『コドモ ファンド』を発売したのはそのような思いからでした。

またクローバーには『浪花おふくろ』『かいたく』『らくちん』という兄弟ファンドがあります。これらのファンドの投資にも世界的なネットワークの分析成果を反映させると同時に、お客様に選んでいただけるよう少しずつ特徴をはっきりとしたものにして進化させて行きたいと考えております。

これまでいろいろご心配をおかけいたしました。これからは時間とともにどんどん良くなるファンド達を育てていきたいと思っております。本当に面白くなりそうです。今まで以上のご支援、ご鞭撻いただけますようよろしくお願い致します。

平成25年8月1日

【略歴】 1959年生まれ。慶応義塾大学商学部卒、同大学院修士課程修了。1999年から2008年まで9年間、スイス・ジュネーブ市を拠点に株式会社三城ホールディングス（東証7455）のスイス子会社（当時）であるParis Miki International SAの執行責任者兼運用責任者としてグループ企業の資金の運用を行う。主にファンドを中心に世界各国のマネージャーを直接訪問。当時の人脈によりスイスをはじめ世界各分野の専門家のネットワークを構築。株式会社三城ホールディングス 取締役。公益財団法人奥出雲多根自然博物館 理事長。（2013年7月1日より現職。）

clover
asset management

いよいよ2013年最大の山場がやって来そうです

クローバー・アセットマネジメント株式会社

代表取締役社長 多根幹雄

昨年の暮れから大きく変化し始めた日本の株式市場。あまりにアップダウンが激しいのでこの先どうなるのかご心配の方もいらっしゃるかもしれません。でも心配ご無用です。いよいよここ数年で最大の買い場がやって来そうです。

この7月末からは予想通り調整期間を迎えており、一時的な円高、株安が進行しています。理由は、米国の景気が予想以上に良い為に「QE3（米国の量的金融緩和）が早期に縮小されるのではないか」と考える投資家が増えており、リスクのある資産から逃げているためと思われます。

しかし、これから数年にわたる大きな流れである円安、株高という長期トレンドは変わらないのではないかと思いますし、今まで日本株を買いあさっていたのは短期の投資家为中心で、本格的な長期の投資家は国内外ともまだまだ日本株を買っていないようです。いまだにヨーロッパの機関投資家もほとんど日本株を持っていないようで、彼らがたっぷり投資してしまっている新興国株や債券、そして金をはじめとするコモディティの損失が膨らんでいる可能性があること、さらに今年に入って日本株への問い合わせが増大し、日本株専門の担当者の不足が指摘されていること考えると、今後彼らも本格的に日本株に参入をしていくことが予想され、ここから数カ月がこの先の数年を見越した大相場の絶好の買い場となると考えています。

弊社としてもこの機会を活用すべく、各ファンドも15から20パーセントのキャッシュポジションでスタンバイしていますし、特にコードモファンドは約半分をキャッシュにして底値でしっかり買う準備をしています。

さあいよいよこれからが本格参戦です。今後の成果にご期待ください。

平成25年8月12日